記者発表資料

平成２８年４月２２日
東 北 地 方 整 備 局

入札監視委員会の審議概要について
第４回定例会議（第二部会）

東北地方整備局入札監視委員会の平成２７年度第４回定例会議（第二部会）が、平成２８年３月１４日（月）に仙台市の東北地方整備局で開催されましたので、その審議概要（別紙）についてお知らせします。

なお、第４回定例会議では、委員会が抽出した案件６件の審議が行われ、意見の具申及び勧告事項はありませんでした。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問 い 合 わ せ 先

（第二部会）仙台市青葉区本町３丁目３番１号　TEL (022)716-0013(ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ)
契 約 管 理 官　中嶋 勝正（内線６２２１）
経理調達課課長補佐　山田 耕平（内線６５５４）

東北地方整備局　入札監視委員会（第二部会）審議概要

開催日及び場所	平成２８年３月１４日（月）　東北地方整備局 会議室		
委員	部　会　長　齊藤　幸治　【 弁護士 】 部会長代理　高橋　敏彦　【（学）東北工業大学 工学部 教授 】 委　　員　是川　晴彦　【（国）山形大学 人文学部 教授 】		
審議対象期間	平成２７年１０月１日～平成２７年１２月３１日 （対象期間に契約締結した案件を審議）		
審議案件	総件数　６件　（別紙―１ 審議案件一覧のとおり）		
工事	一般競争入札（政府調達に関する協定適用対象）	１件	（備考） (1)工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 (2)指名停止等の運用状況 (3)談合情報等の対応状況 (4)再度入札における一位不動状況 (5)低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況について報告を行った。
工事	一般競争入札（政府調達に関する協定適用対象以外）	２件	
工事	工事希望型競争入札	０件	
工事	指名競争入札	０件	
工事	随意契約	０件	
建設コンサルタント業務等		２件	
役務の提供等及び物品の製造等		１件	
委員からの意見･質問、それに対する説明･回答	別紙―２のとおり		
委員会による意見の具申又は勧告の内容	本日の審議案件について、意見の具申及び勧告事項はない		

別紙―1

審　議　案　件　一　覧

入札方式	工　事　名	工事種別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 （単位：千円）	落札率 （単位：％）	備　考
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事）	釜石港湾口地区湾口防波堤(災害復旧)本体工事(その４）	港湾土木	6者	6者	27.10.9	東洋・株木特定建設工事共同企業体	624,672	88.23	釜石港湾事務所

入札方式	工　事　名	工事種別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 （単位：千円）	落札率 （単位：％）	備　考
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの）	青森港本港地区(-10m)(改良)改良工事	港湾土木	4者	4者	27.12.8	(株)青洋建設	125,280	90.96	青森港湾事務所
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの）	八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設本体工事(その２）	港湾土木	1者	1者	27.12.24	畑中建設工業(株)	175,500	98.66	八戸港湾・空港整備事務所

【建設コンサルタント業務等】

入札方式	業　務　名	業務区分	手続きへの参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	技術提案書の提出者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 （単位：千円）	落札率 （単位：％）	備　考
簡易公募型競争入札方式	青森港本港地区堤埠頭岸壁(-7.5m)(改良)土質調査(その２）	測量・調査	8者	8者	27.11.13	(株)ダイヤコンサルタント東北支社	16,740	91.92	青森港湾事務所
簡易公募型競争入札方式	八戸港深浅測量(その２）	測量・調査	1者	1者	27.10.7	(株)アイテック	4,644	95.55	八戸港湾・空港整備事務所

【役務の提供等及び物品の製造等】

入札方式	業　務　名	業務分類	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 （単位：千円）	落札率 （単位：％）	備　考
一般競争入札方式	仙台塩釜港石巻港区ちとせ修理工事	物品の製造（船舶類） 役務の提供等 （船舶整備）	1者	1者	27.11.13	(株)鈴木造船所	11,858	99.85	仙台港湾空港技術調査事務所

別紙―２

１．報告

意見・質問	回　　答
・東北地方整備局が指名停止を行った案件は、他の地方整備局でも同様の指名停止となるのか。	・東北地方整備局管内で起こりました贈収賄等については、全国の指名停止となります。 　他方、管内で起こりました不適切な安全管理による工事関係者事故については、東北地方整備局管内に限定した指名停止となります。
・指名停止措置を行うのはいつか。	・死亡事故で略式起訴され罰金納付を求刑された場合は、罰金の納付で刑が確定することから、その時点で指名停止手続きを開始します。 　また、贈収賄等の刑事事件の場合は、逮捕又は公訴を提起された時点で指名停止手続きを開始します。
・贈収賄等の情報はどこから収集するのか。	・新聞報道等により情報収集しています。 　工事関係者事故については地方自治体等を含む公共事業発注機関による連絡網により事故等の情報交換を行っています。

２．審議

意見・質問	回　　答
１　釜石港湾口地区湾口防波堤(災害復旧)本体工事(その４)	
・入札には６者参加しているが、入札価格が最も高い業者は他の業者より1.2億円程突出している。その理由は何か。	・見積参考資料を開示していること、過去の同種工事の積算内訳も公表されていることから、なぜ約１億円の差が生じたか理由は分かりません。
・太平洋側では震災の影響で技術者の確保が難しいと聞いているが、今回多くの業者が応札した理由は何か。	・発注規模が大きいこと、現場条件に特段の課題もなかったことから、応札意欲が高かったと思われます。
２　青森港本港地区(-10m)(改良)改良工事	
・本件も算定基準等が公表されているのか。	・本件についても見積参考資料、積算基準等、公表されております。
・本件改良工事は難易度は高いのか。	・特に難易度は高くありません。
３　八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設本体工事(その２)	
・本件は、ケーソンを製作し仮置きする工事内容に対して１者しか応募がなく、落札率も高い、どのような理由か。	・応札しなかった入札説明書をダウンロードした１者に確認したところ、技術者の配置が困難であったとの回答を得ております。 　また、国以外の発注機関においても、年度末を工期とする工事が多数発注されており、技術者の配置が困難であったのではないかと推測されます。 　落札率については、直接工事に占めるフローティングドック損料の割合が約３４％と高いことや、鉄筋組立作業等で工期短縮の余地が小さいなど、企業努力が反映されにくいことがあります。 　また、冬期間の作業であり、気象条件によって経費もかさむことから、この経費を応札額に反映させた結果ではないかと推測されます。

・本件工事は、コンクリートを打設後シートで覆って熱風を当てる寒中養生するとのことだが、工事の履行期間を例えば５月からの施工とすれば、これらの経費は掛からないのではないか。	・当初は、夏期に施工を予定したところですが、予定した製作場所が老朽化により補修を行う必要が生じたため、再度関係する機関と調整を行い、この時期の発注となったものです。

意見・質問	回　　答
４　青森港本港地区堤埠頭岸壁(-7.5m)(改良)土質調査(その２)	
・８者の入札参加で競争性は確保されているが、応札額にばらつきがあり、３者が予定価格を上回っている。応札額を算定しにくい調査なのか。	・ある程度必要な情報は開示していますが、用船等の外注経費が要因で開差が生じたものと推測されます。
・作業船は自前で用意しなければならないのか	・用船又は自前でスパット台船等を準備することになります。
・技術点で差がついた理由は何か。	・業務成績の配点で差が付いたものです。
５　八戸港深浅測量(その２)	
・技術資料の提出が可能な対象業者数は５６者見込まれたが、実際に競争参加表明した者は１者となっている。理由は何が考えられるか。	・入札説明書をダウンロードし入札に参加しなかった業者に確認したところ、技術者の配置が困難、地理的に不案内との回答がありました。
・深浅測量をマルチビームと音響測探で行う理由は何か。	・マルチビームで測量した区域は、基礎マウンドを施工した場所であり、施工後２年程経過したことから、低気圧等の影響で基礎マウンド形状が変形していないか精度良く確認するためマルチビームで測量を行ったものです。 　他方、音響測深で実施した区域は、下流土砂の堆積による海底地形の埋没の有無を確認するために行ったもので､目的及び期待する精度に応じて使い分けたものです。
６　仙台塩釜港石巻港区ちとせ修理工事	
・入札参加者が１者だけであるが、受注者は地の利がよかったのか、今までも船の修理を担当していたのか。	・２～３年前は、他の業者が受注していましたが、以降は当該業者が受注しています。確かに地の利はありますが、震災後Ｈ２３年以降東北運輸局の資料によると造船の仕事が混んでいると思われます。
・仕事量も豊富な状況で手慣れた船ということで応札したのか。	・当該船を熟知している業者であることから、初めて参入する業者と比べて有利なのかもしれません。
・船の点検はどうなっているか。	・３年毎に中間検査と定期検査を行います。また、毎年定期点検を行っています。
・船舶の寿命は何年位か。	・メンテナンスの状況によりますが、「ちとせ」は現在３４年経過している船です。部品の調達が可能なら４０年程度使用できるかもしれません。
・業務の発注等級はＣ等級となっているが、競争参加資格申請所の提出が可能と判断される業者はＡ．Ｂ．Ｃ．Ｄ等級と複数としている理由は何か。	・過去の実績からＣ等級に限定しますと応募者が少ないことが予想されるため、上位のＡ．Ｂ等級まで弾力的に等級を拡大してきましたが、更に、下位のＤ等級にも範囲を広げて競争性を高めているものです。